

<健康・安全指導部会 体力向上チーム>

【児童生徒の実態】

・新体力テストにおいて、体力優秀校に選ばれるなど中学校の体力は高い。しかし小学校では種目によって違うが、全体的に県平均を下回っており、体力の低い児童の割合が高い。また、中学校でも体力が高い生徒と体力の低い生徒の二極化が見られる。

【部会のねらい】

・児童生徒同士がコミュニケーションを図り、よりよく運動に関わろうとする意識を高め、体力向上を意識して主体的に運動に取り組んだりすることができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・基礎体力向上と小中間のギャップ緩和を目的とし、中学校で実施している準備運動を部分的に取り入れる(昨年度からの継続実施)。県平均を下回る種目については、小中交流での乗り入れ授業などを通して、教師間で様々な取組を考え実践する(非日常的な動作や支える力を身に付ける)。
成果	・中学校で実施している準備運動を一部分でも行うことで、運動量を確保すると共に各小学校独自の名称を付けて児童に愛着が生まれた。 ・高学年の児童の授業に中学校の教員が参加し、「投げる」「跳ぶ」の本格的な技術指導を行うことで、児童の運動意欲の向上につながった。
課題	・新体力テストで県平均を下回る種目があることから、準備運動と同様に継続して課題種目の補強運動を取り入れるなどの意識付けを行っていくことが必要である。 ・今後も小中の先生方で連携を図りながら、体力の向上に向けた効果的な取組を考えていく。

小学校での乗り入れ授業

